

2011年3月期 第3四半期決算報告 個人投資家の皆さまへ

いちばん、人を考える会社になる。

第一生命

第一生命保険株式会社

証券コード: 8750

2011年3月期 第3四半期決算のポイント

- 主力商品の販売好調で第一生命(以下、「当社」)単体の新契約高は前年同期比で13.9%増加するなど、中核事業の営業指標が第2四半期に引き続き改善しました。
- リスク性資産の圧縮など、財務健全性の強化に向けた取組みが進展しました。また昨年12月28日には、持分法適用関連会社である豪タワー社の完全子会社化^(注)を発表しました。
- 有価証券評価損を691億円計上したこともあり減益となりましたが、通期では、第一生命単体の保険営業面での業績が順調に推移していることに加え、一定程度の資産運用損益の改善等を見込むことから、昨年5月に公表した連結業績予想を据え置いております。

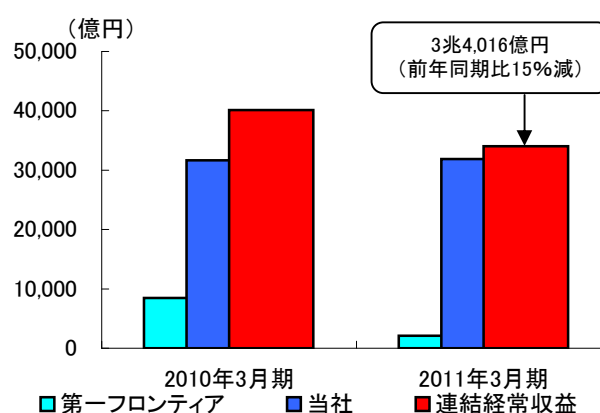
(注) 当社は、タワー社との間で、当社未保有のタワー社株式の全株取得に関する契約を締結しました。友好的な買収手法により、関係当局の認可やタワー社株主総会での承認等を前提に、2011年5月をめどに完全子会社化を実現する予定です。

(1) 経常収益

連結経常収益は3兆4,016億円(前年同期比15%減)となりました。

当社単体の経常収益は前年同期比で増加した一方、第一フロンティア生命(以下、「第一フロンティア」)では前年同期において変額年金販売が特殊要因等で大幅に増加していたことの反動から減少しました。

経常収益第3四半期実績(累計)



(2) 経常利益・純利益

連結経常利益は1,062億円（前年同期比20％減）、連結純利益は156億円（前年同期比56％減）となりました。

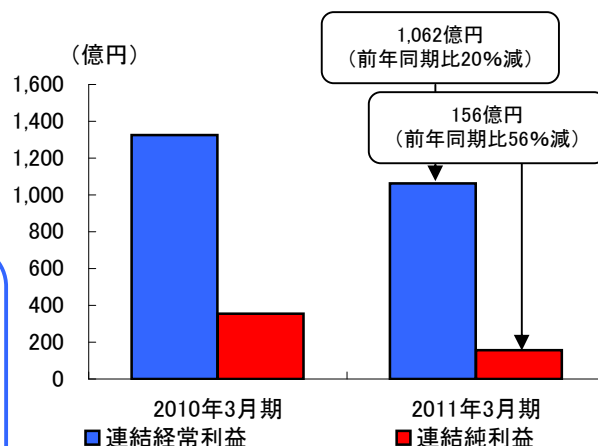
保有有価証券に係る評価損^(注)を691億円計上したことなどが影響し、前年同期より減少しました。

(注) 有価証券の評価損とは？

保有している有価証券の時価が著しく下落した場合に、簿価を時価まで減額させる会計処理にともない計上する損失のこと。より具体的には、時価が著しく下落し、その回復があると認められないものについて、簿価と時価の差額が、当期の損失として損益計算書に計上されます。

なお、有価証券などの含み損益の状況については、以下(5)をご参照ください。

経常利益・純利益第3四半期実績(累計)



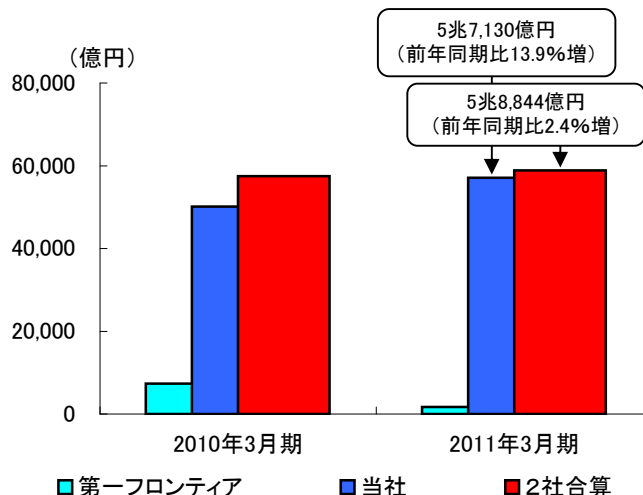
(3) 新契約の状況

新契約高は、当社と第一フロンティア合算ベースで、5兆8,844億円（前年同期比2.4％増）となりました。

当社の新契約高は、新商品「順風ライフ」の販売が堅調で、5兆7,130億円（前年同期比13.9％増）と高い伸びを見せました。

一方、第一フロンティアの新契約高は、前年同期において変額年金販売が特殊要因等で大幅に増加していたことの反動から、前年同期比で減少しました。なお、第一フロンティアは保有契約高が1兆4,077億円となるなど、開業から3年間の業績は順調に推移しています。

新契約高第3四半期実績(累計)

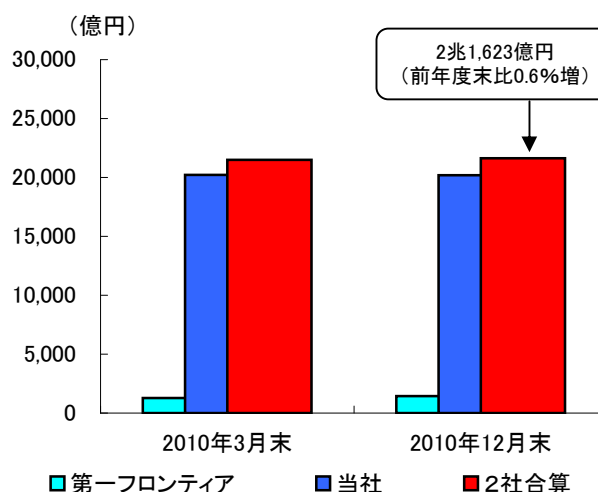


(4) 保有契約の状況

保有契約を1年あたりの保険料に換算した年換算保険料は、当社と第一フロンティア合算ベースで、2兆1,623億円（前年度末比0.6％増）となりました。

このうち、第三分野の年換算保険料は5,000億円（前年度末比1.1％増）となり、保有契約全体の年換算保険料の伸びを後押ししました。

保有契約年換算保険料



(5) 含み損益

当社の一般勘定資産の含み損益(2010年12月末)は、株価下落及び円高等により国内株式及び外国証券の含み損益が悪化した一方、金利低下に伴う債券価格上昇により国内債券の含み益が大きく増加したため、1兆22億円(前年度末比602億円増)となりました。

含み損益(当社、一般勘定)

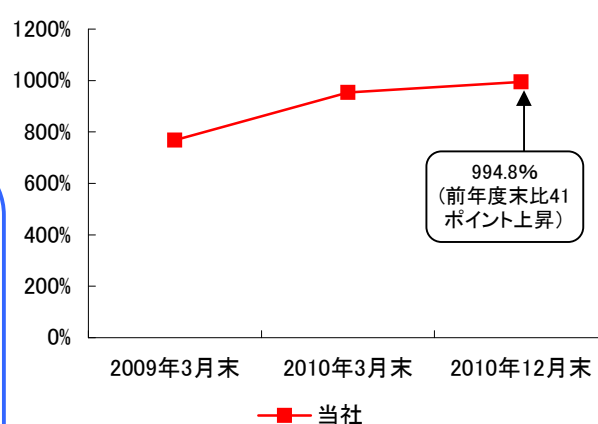
(億円)

	2010年 3月末	2010年 12月末	増減
有価証券	8,514	9,268	+754
うち国内債券	2,657	6,600	+3,942
うち国内株式	5,225	3,635	△1,590
うち外国証券	598	△1,014	△1,612
不動産	908	709	△198
その他共計	9,420	10,022	+602

(6) ソルベンシー・マージン比率^(注)

当社のソルベンシー・マージン比率(2010年12月末)は、リスク性資産の圧縮が進んだことから、994.8%(前年度末比41ポイント上昇)となりました。

ソルベンシー・マージン比率の推移



(注)ソルベンシー・マージン比率とは？

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに備えて「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。

具体的には、生命保険会社が抱える保険金等のお支払いに係るリスクや資産運用に係るリスクなど、多様なリスクが通常の予測を超えて発生した場合、資本などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージン総額)で、これらリスク(リスクの合計額)をどの程度カバーできているかを指数化したものです。

同比率の算出は、ソルベンシー・マージン総額をリスクの合計額で割算して求め、同比率が200%以上であれば、健全性についてひとつの基準を満たしていることを示しています。

(7) 業績予想

2011年3月期の連結経常収益は、前年度において第一フロンティアの変額年金販売が特殊要因等で大幅に増加していたことの反動を主因として、前年度に比べ減少を予想しています。

第3四半期には有価証券評価損を691億円計上したこともあり減益となりましたが、通期では、第一生命単体の保険営業面での業績が順調に推移していることに加え、一定程度の資産運用損益の改善等を見込むことから、昨年5月に公表した連結業績予想を据え置いております。

連結業績予想

(億円)

	2010年3月期 (実績)	2011年3月期 (予想)	増減
経常収益	52,940	43,260	△ 9,680
経常利益	1,882	1,950	+67
当期純利益	556	500	△ 56

(円)

1株当たり 当期純利益	-	5,000	-
1株当たり 期末配当金	-	1,600	-

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。